

編集後記

◆ 世界中を震撼させた凶悪テロが9月11日に発生しました。ハイジャックした民間航空機をミサイル代わりにビルに突っ込ませるといふ、正に前代未聞のテロ行為がアメリカの中枢部を襲ったのです。中でもニューヨークの国際貿易センタービルの惨劇は一部始終がテレビ放映され、見る者の目を釘付けにしました。最初の突入を受けて黒煙を噴き上げる高層ビルと、対照的に静穏な双子のビル。そこへ2機目が襲い掛かる様子が生々しく捉えられています。映画の1コマのようなスクープ映像は、センタービル崩壊のシーンと共に繰り返し報道され、最初の衝撃はやがて理不尽なテロへの怒りに移行して行きました。アメリカ政府は犯行グループをアラブゲリラと断定し、首謀者の捕獲と組織への殲滅行動に全力をあげると言明しています。今後の動向が注目されますが、深刻な宗教対立の事態に進展するようなことだけは避けて欲しいものです。

◆ 「宗論はどちら負けても釈迦の恥」と古川柳にもあるように、大多数の日本人は宗教には無頓着であり寛容でもあるようです。ところが、外国ではこの思想(?)は容易には受け入れてもらえません。例えば中南米の国々にはカトリックが深く浸透しています。どんなに親しくなったとしても、彼らと宗教を話題にすることは避けた方が賢明です。

◆ 中南米はまたサッカーに熱狂する国々でもあります。こちらの話題は一座の盛り上がりを助け、親交を深めるのにも大いに役立ちます。銅の国チリも例外ではなく、来年のワールドカップ出場権こそ逃しましたが、サッカー熱の高いなかなかの強豪国です。

今月号の表紙に示すように、地方の街にも立派な競技場が整備されていることに驚かされます。そんなチリの基幹産業である銅鉱業の実態と、チリが世界一の産銅量を誇る理由に迫った記事(渡辺)が今月の巻頭です。

◆ 岩石と土壌の比誘電率測定は試料の体積含水率を知るのに有用で、地層処分サイト空間周囲の岩盤などの含水状態をモニタリングすることへの適応性を検討したのが、次の解説文です(林ほか)。やや専門的きらいはありますが、放射性廃棄物処分問題などの陰に地道な研究が積み重ねられていることを知って欲しいと思います。

◆ 次は道路や地下空間の工事に使われているコンクリート製品のお話です(須藤・有田)。様々な創意・工夫のもとに、こんなにも沢山の製品が道路の下で働いているとは、正直いって驚きでした。正に足元を見据えることの大切さを教えられた思いがしています。

◆ B.メースン著「現代地球化学の父：ゴールドシュミット」が河内洋佑さんの翻訳で本誌に連載されたのは昨年のことでした。今回からは、そのメースン自身の自伝的著作「野外調査から隕石研究まで」を同じく河内さんの訳で掲載いたします。ご存知のように、メースンもまた地球化学の研究者・教育者として世界的に評価の高い人です。その回顧記には大いに興味をそえられるところで、メースンとの親交も深かった河内さんは打ってつけの訳者といえます。今後の連載にご期待ください。(遠藤 祐二)

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二
副委員長：谷田部信郎
委員：磯部一洋・七山 太・中島 隆・
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 0298-61-3754
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第566号	2001年	10月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
2001年10月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2001 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。
また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ